

忘れてざわり

彫刻をつくっていると、幼少期に土にふれて遊んだ経験がフラッシュバックする瞬間がある。それはあたたかくてつめたくて、かたくてやわらかい、なんとも不思議な感覚である。言葉では表せないそのささやかな感動をきっと皮膚がずっと覚えていて、はるか昔のその感覚が制作をとおして急に呼び覚まされた時、つくる喜びを再確認する。

中西紗和は手捻りで蠟原型を制作しブロンズにしている。かたくてつめたい金属には作者のてざわりやぬくもりがそのまま残り、やわらかくあたたかい表情に変化する。広瀬里美は粘土で等身大の作品をつくるが、向き合った時間とそのやりとりがそのまま粘土の表面に表れている。やわらかかった痕跡は焼成というプロセスを経てかたくて確かなものとして作品に残っている。

知識という先入観は純粋な感動の妨げになる。成長とともにたくさんのものに触れて、次第に大きくなった手は感触を知りすぎてしまった。それに反発するように、ときどき、あの頃のてざわりを思い出すように制作をしたくなる。時間は巻き戻せなくても、その触覚を通して純粋な自分に戻れる気がする。いろいろなしがらみから解放され、制作に向き合う時だけ自由なのかもしれない。

中西 紗和
Sawa Nakanishi



<略歴>

1985 東京出身
2014 東京藝術大学大学院
美術研究科

博士後期課程美術専攻

彫刻研究

領域 修了博士（美術）

作品情報はコチラ ▶



広瀬 里美
Satomi Hirose



<略歴>

1998 埼玉出身
2024 東京芸術大学
美術研究科

彫刻専攻 修了

作品アカウントは
コチラ ▶



2024 12.2 Mon — 12.20 Fri

○時 間：8：30～20：00

○休館日：土日祝

○入場料：無料

○協 力：中川特殊鋼株式会社

○住 所：140-0002

東京都品川区東品川2-2-24
天王洲セントラルタワー1F
アートホール

○問合せ：03-5462-8811



Instagram



http://